

学位論文審査の要旨

| | | 要 旨 |
|-----------|---|--|
| 学位申請者 | 熊田 陽子 【ジェンダー学際研究専攻 平成19年度生】 | <p>本論文は、人間の性をめぐる実践の視座から現代都市社会における「生」の構築過程の特質解明を基底的な目的に据える。具体的には、東京の性風俗店（公安委員会届出済みの無店舗型 SM クラブ）での5年間に亘る文化人類学的な民族誌調査で得たデータの実証的分析に基づいて、構造的再生産としての性 = 生殖を規範とする都市的生活様式が齎す枷に抗し、性を基点としつつも構造的再生産 = 生殖とは分離・訣別したところに生成され得る「都市的なる」人間の関係性構築の論理を析出することで、この目的を遂行するものである。併せて、本論では、生殖に囚われない性の在り方を基点に構築される「都市的なる」人間の関係性の論理と諸実践を都市的“性”様式と呼び、独自の概念化を試みている。</p> <p>本論文の意義は、第一に、文化人類学の視点と方法に基づいて現代都市研究の新たな展開を企図するとともに、これまでの現代都市社会研究（あるいは、広く社会理論研究）では周縁に位置づけられてきた人間のセクシュアリティの側面を研究の起点に据える独自性と先駆性にある。第二に、長期間に亘る民族誌的臨地調査に基づいて本論文が提示する現代日本の性風俗世界に関する情報は、それ自体が高い民族誌的価値を有するものである。第三に、「犠牲者か労働者か」という二元論的呪縛を越えて性風俗産業女性従事者の「自己」形成過程を詳細に記述し、それに基づいて彼女たちの「部分的な自己」形成の作法を「切断と接合の実践」として析出し、さらに、そうした実践を都市的生活様式（主流の構造的規制）に抗する「都市的なる」関係性構築の範型の一つとして提示する本論文の一連の論証過程は、先駆性・独自性とともに手堅さを有し、今後の都市社会研究に対して広汎に貢献する可能性を示すものである。第四に、都市的“性”様式なる概念は本論独自の提唱であり、今後一層の精緻化を要するが、先駆性と新規性を示すものである。</p> <p>平成25年11月28日と平成26年1月22日に学位論文審査委員会を開催し、過剰性、都市性、都市的生活様式、都市的“性”様式等の中核的な援用概念の理論的精緻化、援用概念・仮説設定・事例分析の相互間の整合性等について論議がなされたが、その結果を受けて適切な修正がなされた。</p> <p>平成26年2月7日に公開論文発表会と最終試験が実施された。公開論文発表会及び最終試験での質疑応答の内容を含め、最終審査会では、委員全員が一致して本論文が学位取得に相応しい水準に達しているものと判定した。</p> <p>よって、本委員会は申請者に対してお茶の水女子大学博士（社会科学）Ph.D. in Anthropology and Gender Studiesの学位授与を適当と判断する。</p> |
| 論文題目 | 「おんなのこ」として性風俗世界に生きるある東京の無店舗型 SM クラブを通して見た都市的“性”様式に関する研究 | |
| 審査委員 | (主査) 教授 棚 橋 訓 | |
| | 教授 足 立 眞理子 | |
| | 教授 館 かのる | |
| | 教授 藤 崎 宏 子 | |
| | 首都大学東京 教授 小 田 亮 | |
| インターネット公表 | <p>学位論文の全文公表の可否（可・否）</p> <p>「否」の場合の理由</p> <p>ア．当該論文に立体形状による表現を含む</p> <p>イ．著作権や個人情報に係る制約がある</p> <p>ウ．出版刊行されている、もしくは予定されている</p> <p>エ．学術ジャーナルへ掲載されている、もしくは予定されている</p> <p>オ．特許の申請がある、もしくは予定されている</p> <p>本学学位規則第24条第4項に基づく学位論文全文のインターネット公表について</p> | |